

大阪・柏原の歴史

大阪府柏原市といっても府外の人にとってはあまり馴染みがないかも知れない。ここは北は生駒山系から続く山々と、一級河川である大和川を挟み南には金剛山系に連なっている。東隣は奈良県に接し北西部は比較的平坦な地域になっている。

近鉄大阪線の河内国分駅を降りてすぐ東側の一角を散策した。街並みはかなり古い時代から残っている家があちこちに見られ、不思議な歴史に街に迷い込んだような錯覚に捉われた。夢中になって路地に点在する家々を興味深く見学した。

この街の歴史は古く石器時代から数多くの遺跡や古墳が残されている。古代より大和川を通じて、奈良と大阪に抜ける地点にあるため交通の要所として栄えた。更に戦国時代には織田・豊臣氏の支配下に、そして江戸時代にあつては交通の重要な拠点として、天領となり幕府の支配下に置かれた。特に国分あたりに進出してきた徳川方と、大阪五人衆の一人・後藤基次（又兵衛）の夏に陣で、大坂方が道明寺一帯で交戦状態になり奮戦するも基次は自刃している。

現在は大阪教育大学をはじめ大学、短大、専修学校等の教育の町になっている。更にはブドウ栽培が盛んで、私も大好きなワインが醸造されており「河内ワイン」「柏原ワイン」として販売されている。時代は時と共に変化している。

撮影 2011 年春

